

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number : 01-206459
 (43) Date of publication of application : 18.08.1989

(51) Int.CI. G06F 15/21

(21) Application number : 63-316578 (71) Applicant : INTERNATL BUSINESS MACH CORP <IBM>

(22) Date of filing : 16.12.1988 (72) Inventor : VINCENT JAMES P

(30) Priority

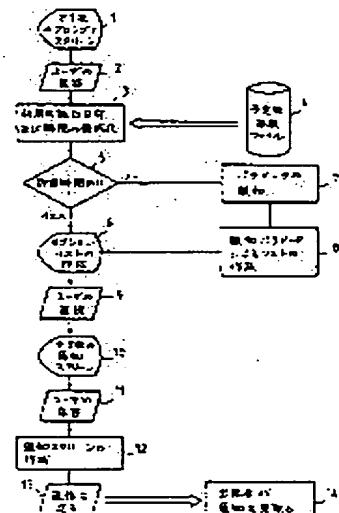
Priority number : 88 153111 Priority date : 08.02.1988 Priority country : US

(54) DATA PROCESSING SYSTEM DEVICE FOR PLANNING CONFERENCE

(57) Abstract:

PURPOSE: To flexibly plan a conference by relaxing the conditions of the conference and specifying the date and time unless there is the date and time meeting all the conditions of the conference when the date and time of the conference are planned according to the attendants and conference place of the conference.

CONSTITUTION: A planner for a conference inputs conditions of attendants, a place, a necessary time, etc., according to the display of a display part, and then the schedule tables of the attendants and place are retrieved from a file 4 to judge whether or not there is the date and time meeting the conditions. When not, the conditions are relaxed by, for example, shortening the necessary time and a list of the dates and times meeting the relaxed conditions is generated and displayed. The planner selects an adequate date and time out of the displayed list and creates and transmits a notification document given a comment on conference contents to the respective attendants.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 特許公報 (B2)

(11)特許出願公告番号

特公平7-31701

(24) (44)公告日 平成7年(1995)4月10日

(51)Int.Cl.⁶
G 0 6 F 17/60

識別記号 庁内整理番号
8724-5L

F I
G 0 6 F 15/ 21

技術表示箇所
L

請求項の数1(全9頁)

(21)出願番号 特願昭63-316578
(22)出願日 昭和63年(1988)12月16日
(65)公開番号 特開平1-206459
(43)公開日 平成1年(1989)8月18日
(31)優先権主張番号 153111
(32)優先日 1988年2月8日
(33)優先権主張国 米国(US)

(71)出願人 99999999
インターナショナル・ビジネス・マシーンズ・コーポレーション
アメリカ合衆国10504、ニューヨーク州
アーモンク(番地なし)
(72)発明者 ジェームズ・フリットップ・ピンセント
アメリカ合衆国テキサス州アーリントン、
ブレンテイス・ストリート1506番地
(74)代理人 弁理士 山本 仁朗(外1名)

審査官 金子 幸一

(56)参考文献 特開 昭60-103479 (JP, A)
特開 昭57-111656 (JP, A)
IBM T. D. B, Vol. 29, No. 4, 1986, P. 1633

(54)【発明の名称】会議を計画するためのデータ処理システム装置

1

【特許請求の範囲】

【請求項1】データ処理システム中に記憶されている出席者の予定表を使用して会議を計画するためのデータ処理システム装置であって、所望の出席者、所望の日付範囲および時間スパンのリストを少なくとも含む複数の会議パラメータを入力するためのプロンプト・スクリーンを会議計画者に提示する手段と、

上記スクリーンへの入力に応答して、上記所望の日付範囲内の全時間をメモリに記憶している上記出席者の予定表と比較する手段と、

上記比較の結果に応答して、上記時間を上記予定表にある事項に従って複数の短い時間帯に分割し、分割した短い時間帯の各々に、対応する事項の開始時間、終了時間、および該時間帯に都合の悪い出席者の表示とを含め

2

る手段と、

上記所望の会議パラメータを満たす上記複数の短い時間帯の中から会議時間を選択するため利用可能時間を表示したオプション・スクリーンを会議計画者に提示する手段と、

上記会議パラメータのすべてを満たす時間帯が存在しないことに応答して、該複数会議パラメータの少なくとも1つを自動的に変更し、変更した会議パラメータを満たす1つまたは複数の上記短い時間帯内の最適会議時間を示すオプション・スクリーンを会議計画者に提示する手段と、

を含むデータ処理システム装置。

【発明の詳細な説明】

A.産業上の利用分野

本発明は一般に会議の計画に関し、具体的には所望の会

議のパラメータが満足されなかつた場合に、代替会議計画を発生する方法に関する。

B.従来技術

会議の計画は常に問題をかかえている。特に問題があるのは会議を計画する者、即ち会議スケジューラが出席が望まれているもしくは必要とされている人々を管理できていない場合である。

従来技術は最初、キーボード／ディスプレイ端末のユーザーの計画を種々の予定表の形式で記憶して、すべての計画を各端末で呼び出せるようにした点で計画の負担を軽くした。これ等の計画は呼び出されて走査され、共通の利用可能な時間が決定されている。計画がある日ある時刻を基にして対話型式で得られるだけならば、その方法は極めて時間のかかる方法である。月毎の要約計画、もしくは予定表を集めることができても、利用可能な時間の記憶にたよるもしくは紙と鉛筆による指定では誤りが生じやすく、面倒になる。

従来技術は現在上述の問題の解決に向つて前進している。端末ユーザーが接続されている上位コンピュータに記憶されている予定表アプリケーション・プログラムは見込み出席者の予定表を読み取つて利用可能な会議の時間及び日付のリストを与えることができる。この利用可能な時間及び日付は計画者の与える日付及び時間の範囲から導き出される。このリストから、会議の計画者は適切な時間及び日付を選択する。選択の後に、この適切な時間及び日付を書き出すか、備忘録を作成することによつて、会議の計画者はメッセージを入力して出席者に送ることができる。これ等のシステムは依然出席者の名前及び会議の時間、日付を再入力しなければならない点で面倒である。

より最近になって、会議の計画者にオプション・スクリーンとして利用可能な会議の時間及び日付を提示する技術が開発された。次に会議の時間及び日付を選択するためにオプション・スクリーンに入力が行われる。オプション・スクリーンから選択された後に通知スクリーンが計画者に提示される。次に計画者は通知スクリーンに入力して、会議の目的及び場所を埋め、適切ならば会期を短縮する。通知スクリーンが完成すると、次にこのスクリーンは会議のすべての出席者に送られ、通知される。このシステムは時間の節約、誤りの減少、入力回数の減少といつた点で進歩しているが、計画者によつて決定された必要パラメータのすべてを満足する会議の時間が決定できない時に生じる問題には向かれていない。

従つて所望の会議パラメータのすべてが満足できない時に対処できる会議計画方法の必要があることは明らかである。

C.発明が解決しようとする問題点

本発明の目的は会議を計画する改良方法を与えることにある。

本発明に従えば、オペレータが所望の時間、日付及び出

席者を選択し、自動的に適切な会議の時間を決定できる会議計画の改良方法が与えられる。

本発明に従えば、オペレータの条件のすべてを満足する会議時間が得られない場合でも、オペレータが所望の時間、日付及び出席者を選択し、適切な会議の時間を自動的に決定する会議計画の改良方法が与えられる。

D.問題点を解決するための手段

会議のためのための所望の時間、日付及び見込み出席者を（キーで）入力するためのブランクを有するプロンプト・スクリーンが会議の計画者に提示される。

このスクリーンへの入力に応答して、各見込み出席者の事項の予定表との比較が行われる。所望の時間、日付及び出席者を満足する会議の時間が得られない時には、これ等の因子が緩和され、許容可能な会議時間が決定される。次に会議時間のオプション・リストが計画者に提示され、会議時間が選択される。計画者の選択によつて、会議の通知スクリーンが出席者に転送されるように作成される。

E.実施例

第1表を参照すると、本発明の計画方法の開始時に会議の計画者に提示されるプロンプト・スクリーンが示されている。本明細書では会議の計画者、計画者、オペレータ及びユーザーは同意語として使用される。このプロンプト・スクリーンは会議を計画したいキーボード／ディスプレイ端末オペレータによって呼び出され、提示される初期スクリーンである。オペレータは会議を計画したい期間の所望の日付、会議に必要な最小時間及び見込み出席者のリストを入力する。

第1表

会議の計画

次の情報をタイプ・インせよ。

日付:9/9/87から

日付:9/1/87迄を探索せよ。

必要会議時間:2時間30分

次の計画をチェックせよ。一空欄につき一つの会議室名もしくはユーザー名あるいはこの両方をタイプせよ。終つたらENTER (入力) を押せ。

スミス _____ ブラウン _____

ジョーンズ _____ 会議室A22 _____

ジョンソン _____ _____

PF9 HELP PF12 RETURN (戻り)

第1表のプロンプト・スクリーンに入力が完了すると、ユーザーはENTER (入力) キーを押す。これによつてプロンプト・スクリーンの内容が見込み出席者の計画と比較が行われる。本発明が使用されるキーボード／ディスプレイ端末は一般にランド線、ハード結線もしくは他の手段によつて処理、記憶及び検索能力を有するホスト・システムに接続されている。この種の構造は古くから知

られていて、最も普通な表示技術はCRT表示である。上位システム・メモリ中にはすべての端末ユーザのための事項の計画もしくは予定表が記憶されている。これ等の計画は各ユーザによって準備され変更される。

プロンプト・スクリーンの内容と見込み出席者の計画との比較の結果がオペレータが入力したパラメータを満足する利用可能な日付及び会議時間である。

従来の計画システムでは、これ等の会議時間はオプション・リストとしてオペレータに提示されていた。しかしながらオペレータの会議パラメータを満足する会議時間が利用できない時には、本発明は第2表に示したように会議オプション・リストによってオペレータに種々の会議オプションを提示する。第2表にリストされた各会議オプションはオペレータが選択した1つのパラメータが満足できない場合の不都合な理由を含んでいる。

本発明に従えば、オペレータは第2表に示したオプション・スクリーン上で選択を入力することによって各目的解決を選択できる。

第 2 表
会議オプション・リスト

日付：09/09/87から

日付：09/11/87を探索せよ。

必要な会議時間：2時間30分

現在すべての計画パラメータを満足することは不可能である。

代換解決法のリストを次に示す。

日付及び時間を選択するために、次の選択の欄に×をタイプして、必要に応じて開始及び終了時間を変更し、ENTERを押せ。

選 択	曜日	日付	開始	終了	不都合
—	水	09/09/87	10:00AM	12:00AM	時間
—	水	09/09/87	1:30PM	5:00PM	スミス
—	木	09/10/87	10:30AM	6:00PM	ジョンズ
—	金	09/11/87	8:30AM	10:45AM	時間
—	金	09/11/87	2:20PM	5:15PM	ジョンソン

スクリーン1の1

PF1 他の試行 PF9 HELP PF10 次のスクリーン PF11 前のスクリーン PF12 RETURN

本発明の好ましい実施例においては、オペレータによって望まれ、第1表のプロンプト・スクリーンに入力される日付及び時間の範囲及び所要時間は参考のために第2表の会議オプション・リスト上にも示されている。オペレータが選択したパラメータを変更した場合には、キーボード上のプログラマブル・ファンクション(PF)キーを押すことによってプロンプト・スクリーンを再び呼び出すことができる。

会議オプション・リストが長すぎて、オペレータの表示スクリーン上に表示できない場合にはPFキーを使用してリストが画面移動できる。提示されたリストから日付及

び時間を選択するためには、所望の日付及び時間の隣の“選択”と記された欄の下に×を入力する。表示されている時間間隔が所望のものよりも長い時には異なる開始及び終了時間を入力することができる。

オペレータがオプションを選択し、キイボード上のENTERキーを押すと、好ましい実施例では通知スクリーンが呼び出され表示されて、オペレータは会議の場所及び目的を入力するよう促される。本発明に適した1つの通知スクリーンを第3表に示す。第2表のスクリーンからオペレータによって選択された日付、開始時間及び終了時間が参考のために第3表のスクリーン上に示されている。もしリストから異なつた日付もしくは時間(あるいはその両方)を選択したい時には、PFキーを押して第2表の会議オプション・リストに戻ることができる。

第3表

会議の通知を送れ

計画日付:9/11/87

開始時間:2:00PM

終了時間:5:15PM

20 次の情報を入力し、送信したい時にPF7を押せ。
場所:3階会議室 (A22) _____

目的:1月の販売報告により、我社の今後の製品に対して新らしい対策が必要であるかどうかを検討する。去年の月次報告及び予測を持参のこと。 _____

PF1 他を試みよ PF2 時間を変更せよ PF7 送信せよ
PF9 HELP PF12 RETURN

30 新らしい会議パラメータが望まれる場合には、別のPFキーを使用して第1表のプロンプト・スクリーンから始まる全動作を再開できる。第3表のスクリーン上で会議の場所及び目的が入力されると、3番目のPFキーを押して会議の通知を第1表のプロンプト・スクリーンで入力した見込み出席者の各々に送信する。

第1図を参照すると、本発明に従う会議を計画する遂行されるソフトウェア動作の流れ図が示されている。まず、オペレータがキイボードを入力することによって、プロシク1に示したように第1表のプロンプト・スクリーンが現われ、日付の範囲、会議の継続時間及び出席者の入力が促される。次にプロシク2によって示したように、第1表スクリーンに入力したデータを使用してユーザの返答が求められ、プロシク3で示したように利用可能な会議の日付及び時間のリストが編集される。この利用可能な日付及び時間は充填したプロンプト・スクリーンをウロシク4中に示した、上位メモリ中に記憶されている出席者の予定表事項ファイルと比較した結果である。次に判断プロシク5でオペレータが指定したパラメータの各々を満足する任意の日付及び時間が存在するかどうかが判定される。

許容される日付及び時間が存在する時には、すべてこのような日付及び時間の結果のリストが会議オプション・リストとしてオペレータに表示され、この表から特定の会議の時間が選択される。この動作をブロック6に示す。

オペレータがブロック9に示したように特定の会議の日付及び時間を選択すると、プログラムはブロック10に示したように第3表の通知スクリーンをアセンブルしてユーザに提示し、会議の場所及び目的の入力が促される。次にオペレータがブロック11に示した、要求されているデータを入力した後、プログラムは各受信者に会議の日付、時間、要求者、場所及び目的を知らせる通知スクリーンを作成する。この作成過程はブロック12によつて示されている。次にブロック13に示すようにこの通知が上位コンピュータによつて各見込み出席者のディスプレイに送られる。ブロック14は各出席者による会議の通信の受信を示す。

判断ブロック5を再び参照すると、オペレータの指定したパラメータを満足する会議の日付及び時間がない場合には、パラメータはブロック7で示すように自動的に緩和される。その後ブロック6に示すように緩和されたパラメータを満足する日付及び時間のリストが表示される。その後、上述のプログラムの動作が繰返される。

第2図及び第3図を参照すると、第1図のブロック3乃至8の動作が詳細に示されている。先ず、ブロック20に示したように、利用可能な日付及び時間のリストの作成は第1の見込み出席者の予定表ファイルを分析することによつて開始する。次にオペレータによつて指定された日付の範囲が上位コンピュータの予定表事項ファイル内で探される。次にブロック21及び22日カウンタが初期設定され、この特定の日付に、第1の出席者の予定の有無が判断される。この日付にこの特定の出席者の予定がない場合には、判断ブロック23で現在の日付がオペレータの指定した範囲中の最後の日付であるかどうかが判断される。もしうでない場合には、論理ブロック24が日カウンタをインクリメントして、プログラムは判断ブロック22に戻り、該次の日付にこの出席者の予定が存在するかどうかが判断される。

判断ブロック23で日カウンタの指定する日付が指定日付範囲の最後の日付に等しいことがわかると、判断ブロック25によつて、他の出席者の有無が判断される。もし有る時は論理ブロック26で次の出席表の予定表事項ファイルが求められ、ブロック21が日カウンタを初期設定しなおして、指定された日付の範囲にわたつてこの出席者の予定事項の分析を始める。

判断ブロック22で予定を調べている指定された日付に特定の出席者の予定が有ることが判ると、ブロック27で、その中の最初の事項がバッファ・メモリ中に読み込まれる。その後ブロック29に示したように利用可能な会議の時間及び日付がこれに従つて調製される。

利用可能な会議の時間及び日付のリストの作成と調製は初期期間を指定した日付の範囲内のすべての利用可能時間に等しく設定するとよつて達成される。この期間は各出席者の予定表にある事項に従つて小さな窓に分割される。結果のリストは各々開始時間及び終了時間、並びにこの窓中に出席できない各出席者の指示より成る複数の時間の窓より成る。勿論、隣接する2つの窓は単に1つの窓に結合されるので、リスト内の2つの隣接窓中には出席できない出席者の同じリストは存在しないことは明らかであろう。

次にこのようなリストの調製を示したリスト調製テーブルを示す。このテーブルは單一日の最初のリストから、2人の出席者の予定表ファイルからの2つの別個の事項を含んだ6つの窓を有する最後のリストへの展開を示している。このようにしてオペレータによつて指定された日付の範囲が、各々開始時間、終了時間及び都合の悪い出席者のリストによつて特徴付られた窓のリストに細分割される。結果のリスト中の窓を調べることによつてオペレータのパラメータを満足する窓が存在するかどうか容易に判断できる。

リスト調整テーブル

リスト番号	開始-終了	不都合	付加事項
1	8:00AM- 5:00PM
2	8:00AM-12:00PM 12:00PM- 1:00PM 1:00PM- 5:00PM 出席者#1 出席者#1昼食 12-1
3	8:00AM-12:00PM 12:00PM- 1:00PM 1:00PM- 2:00PM 2:00PM- 5:00PM 出席者#1 出席者#1 出席者#1会議 2-5
4	8:00AM-11:00AM 11:00AM-12:00PM 12:00PM- 1:00PM 1:00PM- 2:00PM 2:00PM- 5:00PM 出席者#2 出席者#2 出席者#1 出席者#2 出席者#2 出席者#1
5	8:00AM-11:00AM 11:00AM-12:00PM 12:00PM- 1:00PM 1:00PM- 2:00PM 2:00PM- 3:00PM 3:00PM- 5:00PM 出席者#2 出席者#2 出席者#2 出席者#1 出席者#2 出席者#2 出席者#2 出席者#1

次に判断ブロック30を使用して、調べられている日の終りが見込み出席者の予定表中で到達したかどうかが判断される。もし達していないれば次の事項が読み取られ、処理が繰返される。見込み出席者の予定表の日の終りに達

している時には、プログラムは判断ブロック23に戻り、次の日付もしくは出席者を調べるべきかどうかが判断される。

この処理が各日及び各出席者について行われ、日カウンタが現日付が範囲中の最後の日付であることを示すと、論理ブロック31が結果の窓のリストを調べて、どの事項がオペレータの指定した各パラメータを満足するかを判断する。次に判断ブロック32がリストにオペレータのパラメータのすべてを満足する任意の事項を含むかどうかを判断する。このような事項が存在すると、プログラムは第3図の論理シーケンスを続ける。

本発明の主要な概念に従い、オペレータが指定する会議のためのすべてのパラメータを満足するリスト事項がない場合には、判断ブロック33ですべての出席者が利用でき、利用可能な全会議時間（スパン）が最初の所望の時間スパンの75%以上であるすべてのリスト事項が見出される。この技術分野専門家にとつてはこの75%レベルは出願人が選択した設計基準であり、特定の応用に従つて上下できることは明らかであろう。

次に会議パラメータも又利用可能な時間範囲（スパン）が所望の時間範囲以上であり、最大数の出席者が利用できるすべてのリスト事項を見出すことによって自動的に変更もしくは緩和できる。この動作は論理ブロック34に示されている。上述の会議のパラメータの変更の後に、判断ブロック35で変更されたパラメータのリストを満足する任意のリスト事項が存在するかどうかが判断される。もし、存在するならば、第3図に示した論理シーケンスに続く。もし存在しなければ判断ブロック36によってユーザに日付の範囲を広げ及び所望の全会議時間（スパン）を短縮することをユーザに促し、満足できる日付及びスパンが見出される。この後でこの論理の流れ図の部分が終る。本発明のこの実施例は出席者及び会議の全時間というパラメータの緩和を示しているが、日付の範囲を拡張することによって日付の範囲というパラメータを変更することも可能である。

次に第3図を参照して、第2図で言及された詳細なプログラム論理の第2の部分の説明を行う。オペレータの会議のパラメータもしくは緩和されたパラメータの各々を満足する会議のオプション・リストがアセンブルされ、コンピュータ中の適切なバッファ・メモリ内のリストにされた後、論理ブロック50に示したようにリスト・ポインタが初期設定される。次にこのリスト・ポインタからリストの終り迄の事項の数が单一のスクリーン上に表示するには大きすぎるかどうかの判断が論理シーケンス51によってなされる。この单一のスクリーンについて第2表に関連して説明がなされた。総合リストが单一のスクリーン上におさまる時は、第2表の会議オプション・リストはリストの残されている項目が充填され、スクリーン上に残されている行は保護状態にセットされる。この技法はオペレータが会議オプションが存在しない行上

に“X”を入力しないために使用される。この動作を論理ブロック52に示す。もし単一のスクリーンにおさまらない程多くの事項がある時には、ブロック15で、第2表のスクリーンには出来るだけ多くのリスト項目が充填される。

第2表の会議オプション・リストのスクリーンがリスト事項の記入によつて作成されると、これがオペレータに表示される。この動作をブロック54に示す。次にオペレータが何を要求しているかを判断する一連の論理シーケンスが実行される。論理シーケンス55はオペレータが次の事項のスクリーンの表示を要求しているかどうかを判断する。もし要求している場合には、論理シーケンス56で現在表示されているスクリーンが最後のリスト事項であるかどうかが判断される。もしオペレータに表示すべき他の事項のスクリーンがない時は、ブロック54に処理が続き、同じスクリーンが再表示される。もしオペレータに提示すべき他の事項がある時は、ブロック57で示したように、单一スクリーン上に表示できる事項の数だけリスト・ポインタがインクリメントされ、論理シーケンス51で始まる処理に続く。

オペレータが前のスクリーンを要求した場合の処理はスクリーンに残りがある場合の処理と極めて似かよつてゐる。論理シーケンス58によつて、オペレータがリスト事項の前のスクリーンを眺めることを要求していると判定されると、論理シーケンス59でユーザが現在事項の最初のスクリーンを眺めているかどうかの判断がなされる。もし最初のスクリーンの場合にはこのスクリーンが再表示され、ブロック54で処理が続けられる。もし前にリスト事項のスクリーンが存在すると、リスト・ポインタがスクリーンに当てはまるリスト事項の数だけリスト・ポインタがデクリメントされる。この動作はブロック60に示されている。次に処理はブロック53に続く。

もしオペレータがリスト事項の次即ち前のスクリーンを眺めたいという要求を入力していなければ、論理シーケンス61によつて、オペレータが探索を再開する要求をなしているかどうかの判断される。この要求に関連するPFキーが押されると、第1表のプロンプト・スクリーンがデータを変更するために再表示され、適切な会議日付及び時間のための探索が再び開始する。この動作はブロック62に示されている。もしこのような要求がなされていないと、論理システム63はオペレータが第2表のスクリーン上で選択を行うための援助（HELP）を要求しているかどうかが判断される。もし要求されていると、第2表のスクリーンの使用方法を説明した情報スクリーンが表示される。この動作は論理ブロック64に示されている。この説明情報が読み取られ、処理はブロック54に続けられる。

前節で論じた2つの判断のうち、どれもオペレータが要求していない時には、オペレータがリストからどの事項を選択したかどうかが判断される。ブロック65によつて

表わされているこの過程はオペレータが“×”を入力した個所を発見する迄リスト事項の選択欄を走査する。次に論理シーケンス66によって選択した事項の開始もしくは終了欄の下に無効な時間を入力したかどうかが判断される。ここでの入力は会議の継続時間を利用可能な時間中に許容されている最大値より短くすることである。もしこの時間が有効でないと、ブロック67に示すようにオペレータにはエラーが知らされ、処理はブロック54に続く。もし選択された時間が有効な時は、論理シーケンス68でオペレータが選択事項に対する開始欄の下にこの事項のために示されている原開始時間よりも早いかどうかの判断がなされる。もし原開始時間よりも早い場合は、ブロック69で誤りを示すメッセージがブロック69でオペレータに表示され、処理はブロック54に続く。

原開始時間の方が早い場合は、論理シーケンス70で選択した事項の終了欄の下にユーザがこの事項のために示された原終了時間よりも遅いかどうかの判断がなされる。もし遅いと上述のブロック69の動作が行われる。即ちオペレータに誤りが知らされ、処理はブロックに続く。

もしオペレータによって入力された時間が適切な範囲内にあれば、ブロック71でオペレータに会議の場所と目的の入力が促される。ここでこのようなプロンプトを含む通知スクリーンを示した第3表を再び参照されたい。

以上キーボード／ディスプレイ端末ユーザの中で会議を計画するために、会議をアレンジして出席者に通知する方法に柔軟性を与え、通常費やされるべき時間を短縮する方法が説明された。

本発明の方法は日付、開始時間、終了時間及び事項の記

述のような入力時間に関連する情報を入力することによって作成される日程表を使用する。これ等の日程表は代表的な場合、先の用事を思出すために端末オペレータによってスクリーンに呼び出される。本発明の方法は先ず所望の日付及び時間の範囲を入力することによって充填されるプロンプト・スクリーンを与えることによって会議を開きたいオペレータに入力を促す。入力が完了すると、スクリーンの内容が見込み出席者の日程表を比較される。この比較はすべての見込み出席者が予定をたてていない時間を確かめるために行われる。もし比較の結果、会議の行える利用可能な時間及び日付が見付からない場合には、本発明に従いオペレータによって選択された会議のパラメータが自動的及び選択的に変更されて、オペレータに前に入力した条件に近い会議オプションの代替リストが与えられる。このようにしてオペレータによるこれ等のパラメータの手動変更が省かれ、本発明のシステムがオペレータの条件の一部もしくは全部を満足する一組の見込み会議の日付及び時間をオペレータに提示する。

F. 発明の効果

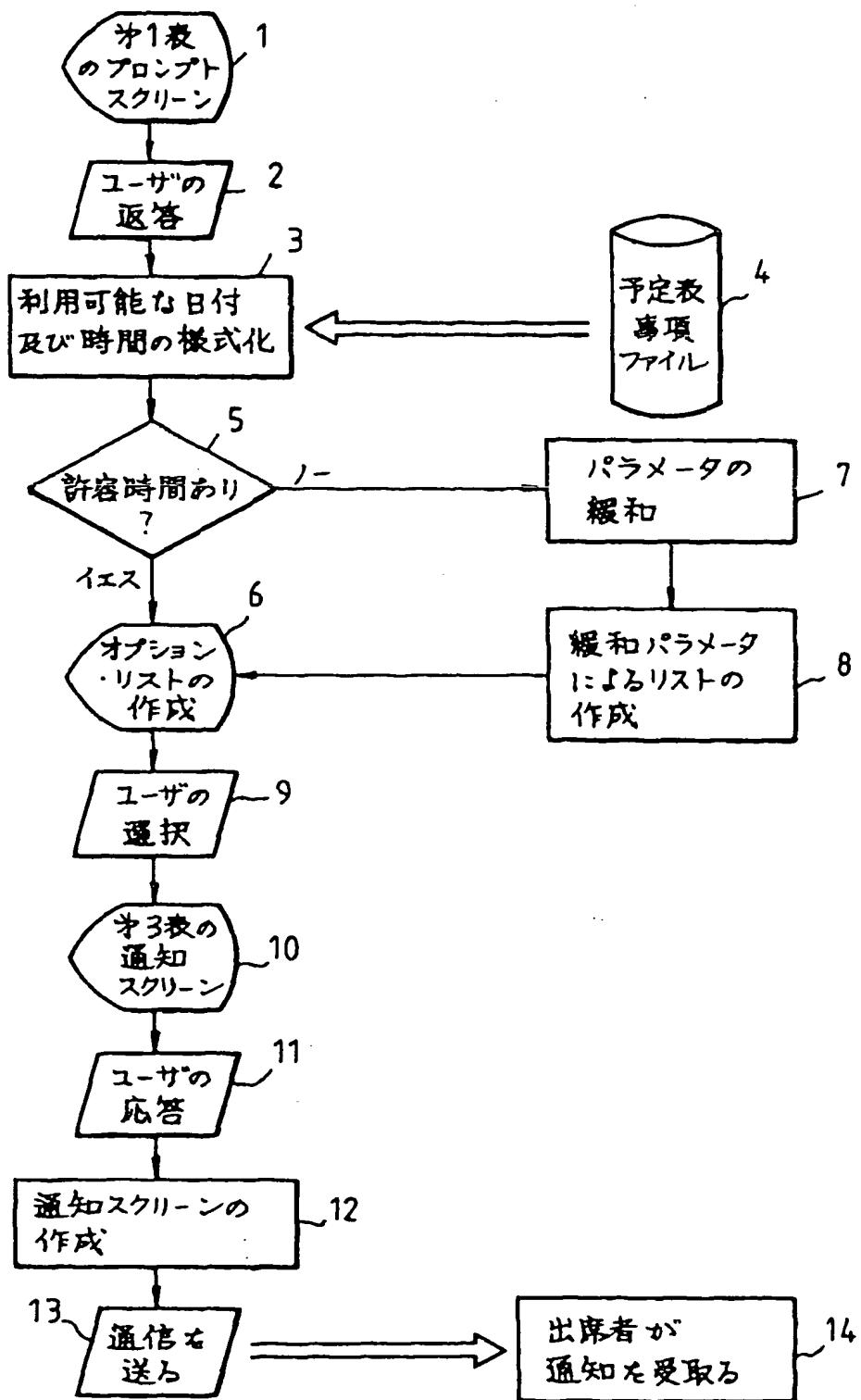
本発明に従えば、会議を計画するための改良方法が与えられる。

【図面の簡単な説明】

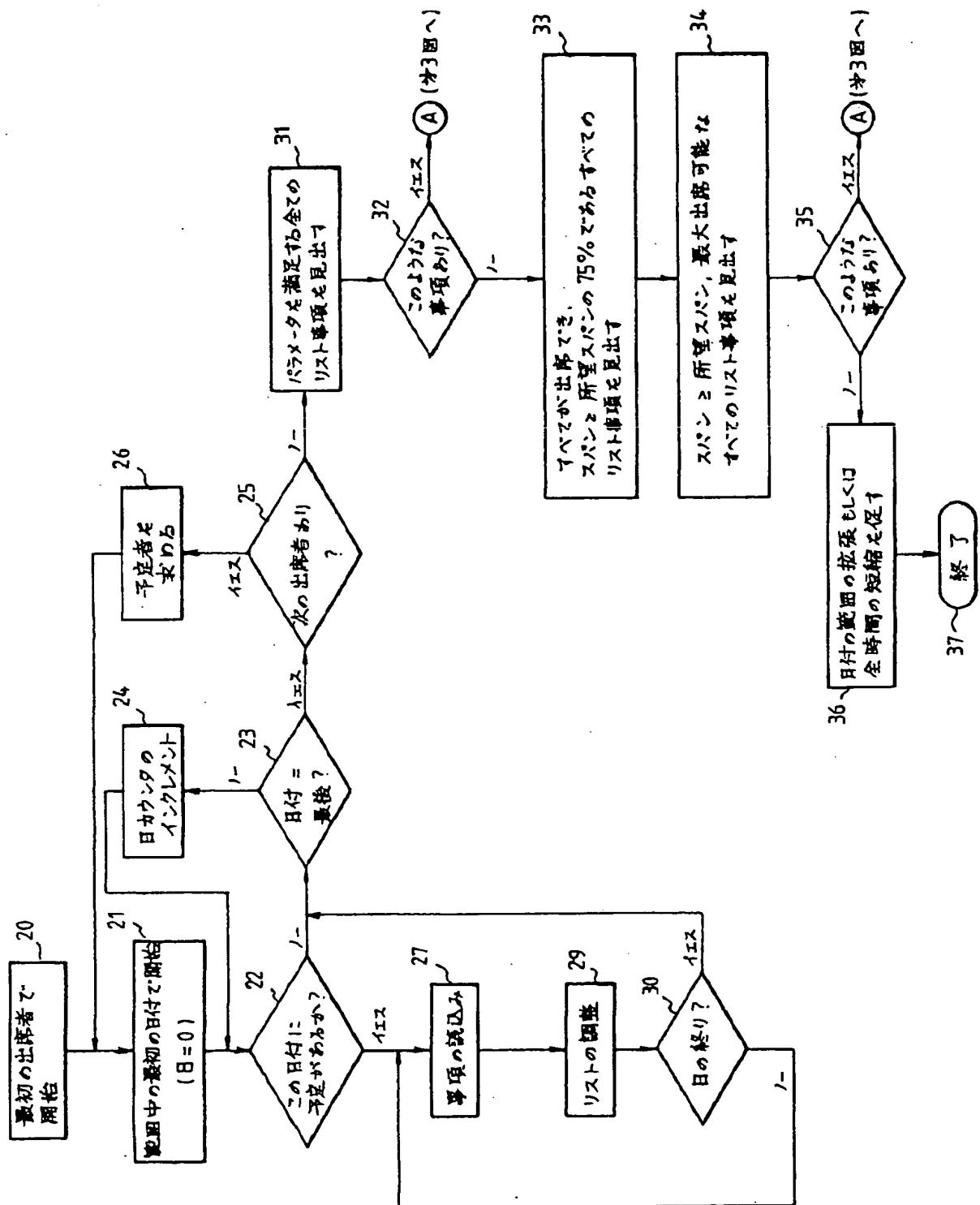
第1図は本発明に従う、会議を計画する際に実行されるソフトウェア動作の流れ図である。

第2図及び第3図は第1図のブロック3-8の動作を詳細に示した流れ図である。

[第1図]



【第2図】



【第3図】

